

シーズの製品化状況

振興会議にシーズを提出後、製品化した事例19件

No.	大学	ギャップ資金		研究開発の名称	製品内容	研究者	所属	設立済・関連企業
		提供年度	金額(万円)					
1	九州大学	2017	100	無線データ伝送・接触圧・温度センサー一体型マイクロ血流量センサ	血流が全身に酸素、栄養、熱、身体の生理的な状態や自律神経とも関係した情報を運ぶことから、血流量の測定は非常に重要です。しかし、血流量は接触圧の影響を大きく受けるので、接触圧を考慮した血流量の測定が再現性良い血流量測定には不可欠です。小型だけでなく、①高い再現性の測定、②体動に強い脈波センサとしての使用も可能、③脈波を顕著にするなどの種々のパラメータ設定が可能、④血流量に大きく影響する接触圧と温度も同時測定、⑤ 血流量センサ・接触圧センサ・モニタリングセンサの光学系のサイズがすべて合わせて、2.5mmx3.9mmx1.35mmと非常に小さい、⑥ブルーーツースによるデータ伝送、⑦低コスト・低価格、を実現。	澤田 廉士 (元:教授) (現:名誉教授)	元工学研究院	Palmens株式会社 2019.03設立
2		2018	100	直感的インターフェースを用いた歯科インプラント手術ナビゲーション開発	「DENTVISION NAVIGATION」は、歯科インプラント手術において、手術ドリルの顎骨中の位置や神経との距離等、術中リアルタイムで表示する高精度なナビゲーションシステムです。トラッキング性能は高い安定性を持ち、術者が直感的に理解できる3D表示によって術前設計を指標に施術出来、安心安全なインプラント手術に貢献する製品です。	大内田 理一 (診療講師)	歯学部	Safe Approach Medical(株)
3		2022	150	在来天敵を用いた畜産害虫サンバエの防除法の開発	畜産害虫サンバエは吸血によるストレスで牛の生産性を下げ、BLVやランピースキン病など重大な伝染病を媒介する深刻な課題となっています。株式会社Arthronは、松尾講師が発見した天敵寄生蜂キャメロンの同定・高効率飼育技術を活用し、サンバエを自然由来で持続的に抑制する新しい防除手法を提供。畜産現場の被害軽減、生産性向上、アニマルウェルフェアの改善を実現します。	松尾 和典 (講師)	比較社会文化研究 院	(株)Arthron 2025.02設立
4	九州工業大学	2018	100	介護系行動認識システム及び行動認識技術の汎用化プラットフォームの開発	介護自動記録AIアプリ「FonLog(フォンログ)」 国立大学法人九州工業大学で開発された介護自動記録AIアプリFonLogは、スマートフォンなどのIoTセンサと、機械学習を用いたAI行動認識技術を用いて、これまで大きな時間を割いていた介護業務記録時間を大幅に自動化することができ、業務の大幅な効率化を可能にするスマホアプリ。	井上 創造 (教授)	生命体工学研究科 人間知能システム 工学専攻	(合)AUTOCARE 2020.02設立
5		2019	200	球駆動式全方向移動装置	本装置は、メカナムホイール等では極めて実現困難な高い走行安定性と静粛性を実現した。開発中の新手法は、ロータの滑りが軽減され、金属ロータで高い耐久性が期待でき、煩雑な調整無しで高い走行安定性を長期間維持できる。海外特許PCT出願済みの新手法により従来の問題を一挙に解決。2023年にベンチャーを設立し製品化、製造業の工場等への導入を進めている。	宮本 弘之 (准教授)	大学院 生命体工 学研究科	(株)TriOrb 2023.02設立
6	佐賀大学	2020	100	コロナ後の「新しい生活様式」を支援するオンラインマップ:ロケモシエア	2020年度にご支援いただいたロケモシエアのスタンプラリー機能が、2020年度末には佐賀県吉野ヶ里町の「ROUTE385 smartスタンプラリー」に、2021年には「佐賀広域圏内(佐賀市・多久市・小城市・神埼市・吉野ヶ里町)の観光施設等を訪問してポイントを貯める「まんなか佐賀ぐるっとスタンプラリー」に採用されました。2022年度からは、嬉野温泉駅再開発事業と連携した観光支援や、多久市商工観光課と連携、小城市の健康増進課と連携したウォーキングイベントなどに取り組んでいます。	中山 功一 (准教授)	理工学部	
7		2022	100	PyrzA 及び PyrA-50 : 薬としての利用を目指した試薬の販売	これまで、低酸素ストレス防御薬として、PyrzA、活性化がたPyrzA-50をの物質特許を取得し、富士フィルム和光株式会社と連携して、試薬として販売中である。新たに機能を高めたPyrzAシリーズもラインナップとして加え、大量合成技術を確立し、ラインナップとして加える事ができた。	辻田 忠志 (教授)	自然科学域 農学 系 生命機能科学 コース 生化学分 野	テトラクリエイト(株) 2020.09設立

シーズの製品化状況

No.	大学	ギャップ資金		研究開発の名称	製品内容	研究者	所属	設立済・関連企業
		提供年度	金額(万円)					
8	大分大学	2017	100	竹を原料とする竹綿とセルロースナノファイバーを製造する「大分大学プロセス」	起業した(株)おおいたCELEENAは、竹セルロースとセルロースナノファイバー(CELEENA)を製品化している。また、大分県の長湯温泉水を使った温泉水CELEENAを新規開発し、化粧品企業での検討が進んでいる。同時に、化粧品binacel serumを製品化し、本年10月にクラウドファンディングを実施して、目標額を上回る支援を獲得した。	衣本 太郎 (教授)	理工学部	(株)おおいた CELEENA 2021.09設立
9		2020	200	磁気センサを用いた金属材質評価技術のコンサルティング	ギャップ資金活用をベースに自社技術の確立を図り、自動車業界を主とした各ビジネスマッチング機関への積極的関与による案件確保に取組み、案件毎に確実に事業連携先を拡充してきた。その中で、自社技術に関するコンサルティングが重要・有益であることを見出し、磁気センサを用いた金属材質評価技術コンサルティングを提供するに至った。今年度、同技術コンサルティング業務を受託した。	槌田 雄二 (教授)	理工学部	株EAMD
10		2021	100	分光法を用いた食品等の簡易検査装置の製造と解析手法	光技術を用い、画像・吸収・蛍光・ラマン光などの色情報、波長や強度から、サンプルの状態を解析する。サンプルを採取することなく、そのままの状態測定できる装置である。得られたデータは、遠隔のサーバに転送し、画像解析およびAI解析を行い、“しょうが”などの食品の生育状態、劣化状態、美味しさの度合などを表示する。	井上 高教 (教授)	理工学部	
11		2023	50	大分大学防災の高度化を図る災害情報活用プラットフォーム(EDiSON)	「PREIN」は災害対策高度化を目的とした産学官民一体で構築する情報活用プラットフォームである。具体的には、地域のデータや雨量・水位などの情報を統合してリスクの可視化やドローン・衛星などの情報から、発災状況を把握して迅速な初動や意識決定などを行う情報活用プラットフォームである。	鶴成 悦久 (教授)	減災・復興デザイン教育研究センター	株INSPIRATION PLUS 2022.07設立
12	宮崎大学	2018	100	宮崎県沿岸域における循環型サクラマス養殖生産事業の定着化	2021.12 選抜育種により生産した桜鱒の種苗を県外養殖業者に販売を開始 2022.01 海面養殖サクラマス「本桜鱒」としてブランド化 2022.01 くら崎監修“桜鱒の桜葉締め”発売 2022.03 本桜鱒とドライマトのチーズグラタン販売 2022.11 本桜鱒の種苗を国内4か所に販売を予定 2023.06 延岡市に養殖施設FISH FARM SAKURAをオープン 2023.11 つきみいくらの新味を発売 2024.07 宮崎県COOPで宮大サーモンの鮮魚(刺身用)出荷開始 2024.10 大手寿司チェーン「カッパ寿司」にてつきみいくらの全国フェア実施	内田 勝久 (教授)	農学部	株Smolt 2019.04設立
13		2021	100	腰痛予防デジタルヘルスアプリ	胸ポケットに入れたスマートフォンを用い、腰部負担(椎間板にかかる圧力)をリアルタイムに数値化する技術を用いたアプリを開発。体験版(無償)を2022年8月にリリース。各種新聞や雑誌DIMEに取り上げられるなどし、2023年度12月4日時点で1,570件のダウンロード数となっている。	田村 宏樹 (教授)	工学部	
14		2022	100	マイナス1~100歳までの健康促進運動プログラム	下記のDVDを作成・販売 ①Let'sエンジョイエクササイズ -1~100歳までの健康運動プログラム ②運動をすすめられているあなたに -歩くための身体と心の準備- 周南公立大学へ転籍のためフォロー終了	鶴田 来美 (教授)	医学部	

シーズの製品化状況

No.	大学	ギャップ資金		研究開発の名称	製品内容	研究者	所属	設立済・関連企業
		提供年度	金額(万円)					
15	鹿児島大学	2019	50	多様な花色・花形を産み出す「新花色トルコギキョウF1切り花」生産技術	2021年12月鹿児島大学ブランド「奥玉洋(オーイヨウ)」の商標登録を行った(第6490744号)。①鹿児島県の農業団体(A社)と事業化を開始、2021年度には補助事業に採択され事業を継続中。②民間企業B社と小規模事業を開始。③タイ国での事業化はコロナの影響からTISTRとの事業化は断念した。かすり形質の新たな遺伝の法則を見出したため、新規F1品種作出のための技術として取り纏め、2024年4月に特許を出願した。	橋本 文雄 (教授)	農学部	㈱Smolt 2019.04設立
16	琉球大学	2021	100	探究自由研究キット(小学生向け)	Mirame.Labが監修した夏休みの探究自由キットを2022年8月のみ限定で販売した。	島田幸治郎 (助教)	理学部	一般社団法人 Qラボ 2021.11設立 堀井工業 miraime.lab
17	福岡大学	2022	200	※福岡大学でギャップ資金を受領後、2024年4月第一薬科大学へ転出。 ①在宅ケアスタッフ間連携システムKURUXA(クルサ) ②離院・徘徊検出システムIKUXA(イクサ)	クルサ(KURUXa)は、在宅ケア現場で単独行動となりやすい看護師・介護職員を支援する位置情報連動型コミュニケーションアプリである。ログイン時のみ位置情報を共有し、簡単な操作で近隣スタッフへ支援要請が可能。支援要請の履歴は自動記録され、現場の安全確保と孤立防止を図る。2026年3月にβ版をリリース予定。 イクサ(IKUXa)は、認知症高齢者の無断離院や徘徊を早期に検知することを目的とした見守り支援システムである。ビーコンを活用し、対象者の移動状況を自動的に検知することで、異常の兆候を関係者に通知する。過度な監視に依存せず、現場の判断を支援する設計とし、施設および在宅での活用を想定している。2026年3月にβ版完成予定。	池田 智 (准教授)	医学部看護学科	㈱XaXaXa 2025.4設立
18	福岡工業大学	2024	50	高齢者自立支援のための俳句を利用した対話システム	俳句創作を支援する対話システム「CHAT-BASHIRA(ちゃばしら)」を開発した。大量のデータと検索機能による歳時記的な機能に加えて、俳句に詠まれた情景を推定することで、創作支援と同時に利用者の精神的な状態の変化を検知することが可能である。また、開発を行ったプロトタイプについての体験会を開催し、システム改良のためのフィードバックを得た。	馬場 謙介(教授)	情報工学部	㈱熊猫 2024.10設立
19	九州産業大学	2022	50	減農薬及び病虫害防止を目指したフルボ酸農法の展開	これまでに、水稻農家の協力を得て対照区を設けて散布の有無を確認し、概ね効果は良好、併せて効果のある水管理の方法についてデータが取得できた。初期の根張り、以降の生育も稲が丈夫に固く成長することが改めて確認できた。ジャンボタニシに対し、この良好な成長が食害を概ね妨げることが出来た。この検証を以て、水稻用にミネラルを調整した活力剤を製品化した。	佐野 洋一 (講師)	生命科学部生命科学科	株式会社フルボ産業